静岡県浜松内陸コンテナ基地指定管理者選定委員会

１　開催日時

令和２年 10 月 23 日(金)　10:00 ～ 11:10

２　開催場所

静岡県庁別館２階　第一会議室Ａ

３　出席者

(1)　委員

会長	一般財団法人企業経営研究所　理事長	中山　勝
委員	公益社団法人静岡県国際経済振興会　理事･事務局長	加藤　雅彦
委員	いずみ公認会計士事務所　公認会計士	和泉　清明
委員	静岡文化芸術大学文化政策学部　教授	田中　啓
委員	清水港利用促進協会　幹事	村岡　一男

(2)　県（事務局）

企業立地推進課	課長	餅原　太一郎
	課長代理	鈴木　正人
	産業国際班　班長	安藤　洋行
	産業国際班　主任	山下　絵理

４　会議録

別紙のとおり

各委員及び事務局の発言要旨を記載している。

発言者は特定していない。

（別紙）

静岡県浜松内陸コンテナ基地指定管理者選定委員会 会議録

１　開会

本委員会は、静岡県浜松内陸コンテナ基地指定管理者選定委員会設置要領第４条第４項の規定に基づき、非公開とする。

２　指定管理者募集の経緯及び選定方法の説明

事務局から、配布資料に基づき、指定管理者の募集の経緯及び選定方法について説明した。

また、申請者である公益財団法人静岡県コンテナ輸送振興協会は、募集要項に定める資格要件を満たしていることを報告した。

３　会長の選出

委員による互選の結果、中山委員を会長に選出した。

４　審査

(1)　申請者からの説明及び質疑応答

申請者が入室し、事業計画を説明した後、委員との質疑応答が行われた。

（委　員）

業務内容の一つに、県内港である清水港及び御前崎港の利用促進があるが、浜松内陸コンテナ基地の利用者が県外の豊橋等の港を利用することはあるか。

（申請者）

浜松市内から名古屋港までの道路が整備された結果、高速道路を使わなくても行き来できるようになった。そのような事情もあり、一定量の貨物が名古屋港に流れてしまっている。名古屋港と県内港の競合は重要な課題と考えており、当財団が主催する浜松内陸コンテナ基地のあり方研究会でも検討テーマとして取り上げる予定でいる。

（委　員）

浜松内陸コンテナ基地のような施設は他にもあるのか。

（申請者）

公設のインランドデポは、全国的にも少ないと聞いている。民間のインランドデポはいくつかあり、例として北関東のインランドデポでは成田空港からの空輸貨物を主に取り扱っている。

（委　員）

コンテナ・ヤードの目的外使用について、収入源として活用することは可能か。

（申請者）

コンテナ・ヤードの目的外使用については、浜松内陸コンテナ基地の近くにある浜松市産

業展示館でイベントが行われる際に、駐車場として使用される場合を想定している。目的外使用には県の許可が必要であり、使用料は指定管理者の収入とはならないため、収入源として活用するのは難しいと考えている。なお、今年度は新型コロナウィルスの影響でコンテナ・ヤードの目的外使用の実績はない。

（委　員）
　他に考えられるコンテナ・ヤードの活用方法はあるか。
（申請者）
　あり方研究会ではコンテナ・ヤードにおけるラウンドユース（空コンテナの効率的な活用）について検討予定である。ただ、ラウンドユースを実施するためには輸出貨物と輸入貨物のバランスが重要であるが、浜松周辺の輸出入の特徴としては輸出貨物が多い。また、輸出貨物と輸入貨物の船主は一致していることが望ましいが、現実的には船主と荷主のマッチングが難しい。
　コンテナ・ヤードが非常に広いというのが浜松内陸コンテナ基地の特徴の一つであるため、上手く活用したいと考えているが、ラウンドユースに関しては課題が多いと感じている。

（委　員）
　事業にかかるコストについて、特に人件費については余裕がないようだが、どのように考えているか。
（申請者）
　消費税増税時に給与を 2%アップしたため、前回応募時よりも人件費が増加したことが要因と考えている。

（委　員）
　財団の基本財産の運用益の状況はどのようであるか。
（申請者）
　指定管理者の申請にあたっては、公益目的事業の収支計画のみ報告することとなっているため、法人会計に含まれる基本財産の運用益については今回の資料に掲載していない。ただ、低金利が続いており、法人会計の収入についても厳しい状況が続いている。

（委　員）
　事務局職員の高齢化が進んでいるため業務引継ぎを意識した業務マニュアルの整備が課題と考えられるが、マニュアルの整備状況はどのようであるか。
（申請者）
　職員の高齢化については評価委員会でも指摘された点であり、課題として認識している。業務マニュアルについては現在作成を進めているところ。次期指定管理を受託できることとなった場合、次期指定管理期間中に現在在籍している職員の交代を予定しているため、各自が業務の引継ぎを意識し、業務マニュアルの内容をより充実させられるよう作成を進めている。

（委　員）
　新型コロナウィルス感染症の影響が長期化した場合、施設利用者が減少する等の懸念はあるか。
（申請者）
　新型コロナウィルス感染症の影響により、2020 年１月～８月までの貨物取扱量は、輸出32%減、輸入３%減（前年比）であったが、現時点では少しずつ荷が戻ってきている。現場の状況を見ても、８、９月頃から利用者の時間外施設使用申請が増えてきた。現時点では、利用者から施設利用中止の申出や利用料の減額要望は出ていない。

（委　員）
　想定しうるリスクの中で、日常的に最も警戒しているリスクは何か。
（申請者）
　業務に最も大きな影響があったのは、台風による長時間停電である。事業継続計画に基づき非常用発電機を導入していたために、当財団及び管理棟に入居している他の２団体にも必要最低限の電力を供給でき、業務を継続することができた。
　日常的なリスクとしては、ゲリラ豪雨や台風によるコンテナ・フレート・ステーション２号棟の雨漏りを懸念している。

（委　員）
　施設が老朽化しており、突発的な修繕の必要性が高まっているが、どのような対応を考えているか。
（申請者）
　県に施設の老朽化に伴う計画的な改修の実施についてお願いしたい。

（委　員）
　管理運営上、ソフト面でのリスクはあるか。
（申請者）
　職員の高齢化がリスクであると考えている。次期指定管理期間中には職員の交代を進めたい。

（委　員）
　もし専務理事兼事務局長が倒れてしまった場合、どのような対応をとることとなっているか。
（申請者）
　文書で規定しているわけではないが、個人的には前専務理事等に対応をお願いしたいと考えている。

(2)　意見交換及び採点

　申請者は退室し、委員による意見交換及び採点が行われた。

（委　員）

事務局職員の高齢化について、職員が交代した場合の人件費が気がかりではあるが、限られた予算の中で前向きに管理運営に取り組んでいるという印象を受けた。

（委　員）

施設の管理運営に関する様々なリスク要因を把握できている。対応が難しい課題もあるが、今後も県との協議を継続し対応してほしい。

（委　員）

あり方研究会を主催する等、指定管理業務に対して前向きな姿勢は評価できる。

BCP についても、財団が浜松内陸コンテナ基地内で防災訓練を実施したと聞いている。放水訓練等も行い、現場からは参考になったとの意見が聞かれた。

（委　員）

施設の運営には海貨業者の協力が不可欠だが、財団のこれまでの運営実績から見ても問題ないと思う。

（委　員）

施設の管理運営に対するリスクを把握できており、課題に対しても前向きに対応している。

ただ、収支については厳しい状況であるため、無料で貸し出している施設については県と相談の上、有料で貸し出すといった収入源を増やす努力は必要であると思う。

(3)　採点結果の発表

事務局が、各委員の採点表を回収して集計し、結果を委員に報告した。

５人の委員の平均点は 88.2 点で、業務基準を満たしていないとする「0 点」の評価項目は、全委員でなかった。

(4)　優秀者の決定

採点結果に基づき、公益財団法人静岡県コンテナ輸送振興協会を優秀者として決定した。

５　閉会

事務局から、今後の手続きの説明、審議への謝辞があった。